
自動車リサイクル部品の普及に向けて ～質の高い、循環型社会への貢献～

2014年 8月 20日

一般社団法人日本自動車リサイクル部品協議会
代表理事 清水信夫



一般社団法人自動車リサイクル部品協議会とは？

自動車補修用のリユース部品、リビルド部品(以下リサイクル部品と総称)の流通に携わる全国の業者団体12団体500企業によって構成された日本を代表する連合組織です。

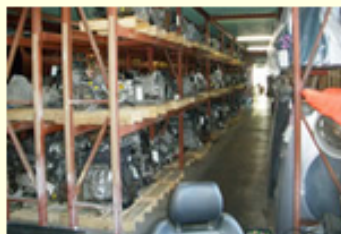
平成7年(1995年)11月に日本自動車リサイクル部品販売団体協議会として発足、平成22年(2010年)11月に一般社団法人に改組しました。

国が定めた「循環型社会形成促進基本法」「資源の利用の促進に関する法律」及び「使用済自動車の再資源化等に関する法律」に基づき、行政及び関連業界との窓口としての役割りとリサイクル部品の普及促進を活動の主目的とします。



自動車リサイクル部品とは？

豊富な在庫でいつでも対応



いつ必要になるかわからない補修部品。
国産車、輸入車を問わず、市場に多く販売されている車種の
大半を網羅しています。豊富な在庫の中からご提供できる
体制になっています。

リサイクルパーツにはリユースパーツとリビルトパーツがあります。

リユースパーツ(中古部品)

使用済自動車から利用できる部品を取外し分解等の手を加えず、目視・現車・テスター等による点検を行ない清掃・美化を施し商品化された再利用の部品

リビルトパーツ(再生部品)

使用済自動車から取外した部品や修理の際に発生した交換部品等をベースに磨耗・劣化した構成部品を新品と交換、再組立してスターを用いて品質確認を行ない商品化された再生利用の部品



リサイクル部品は「グリーン購入法」の指定商品です。

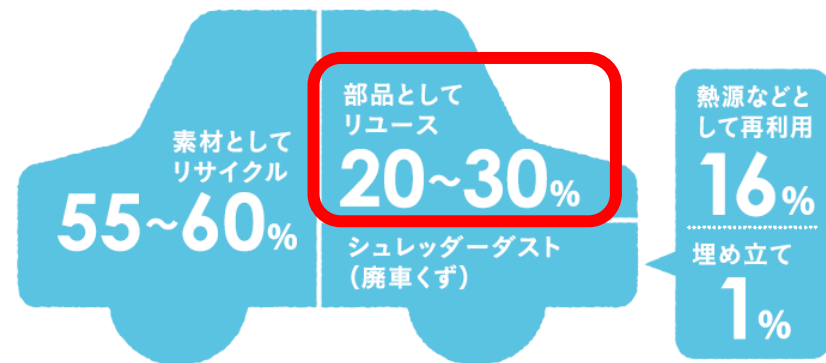
「グリーン購入法」とは、購入の必然性を十分に考慮し、品質や価格だけでなく環境の事を考え、環境負荷ができるだけ小さい製品やサービスを、環境負荷の低減に努める事業者から優先的に購入しようと、2001年4月に施行された法律です。国の機関はグリーン購入に取り組む事が義務付けられ、地方自治体は努力義務、事業者や国民にも一般的責務があると定められています。自動車リサイクル部品も「グリーン購入法」の指定品目となっています。

質の高い循環型社会に向けたリサイクル部品の位置付け

環境省廃棄物・リサイクル対策部長 鎌形浩史氏のインタビュー

リサイクル対策や廃棄物処理、生活雑排水対策などに取り組む通称「廃リ部」。「資源循環は『量から質へ』ということもある。（循環型社会形成推進基本法による）推進基本計画に基づき、引き続きしっかりと取り組んでいきたい」と話す。

現状のリサイクル率



出所：環境省 自動車所有者向け普及啓発チラシ

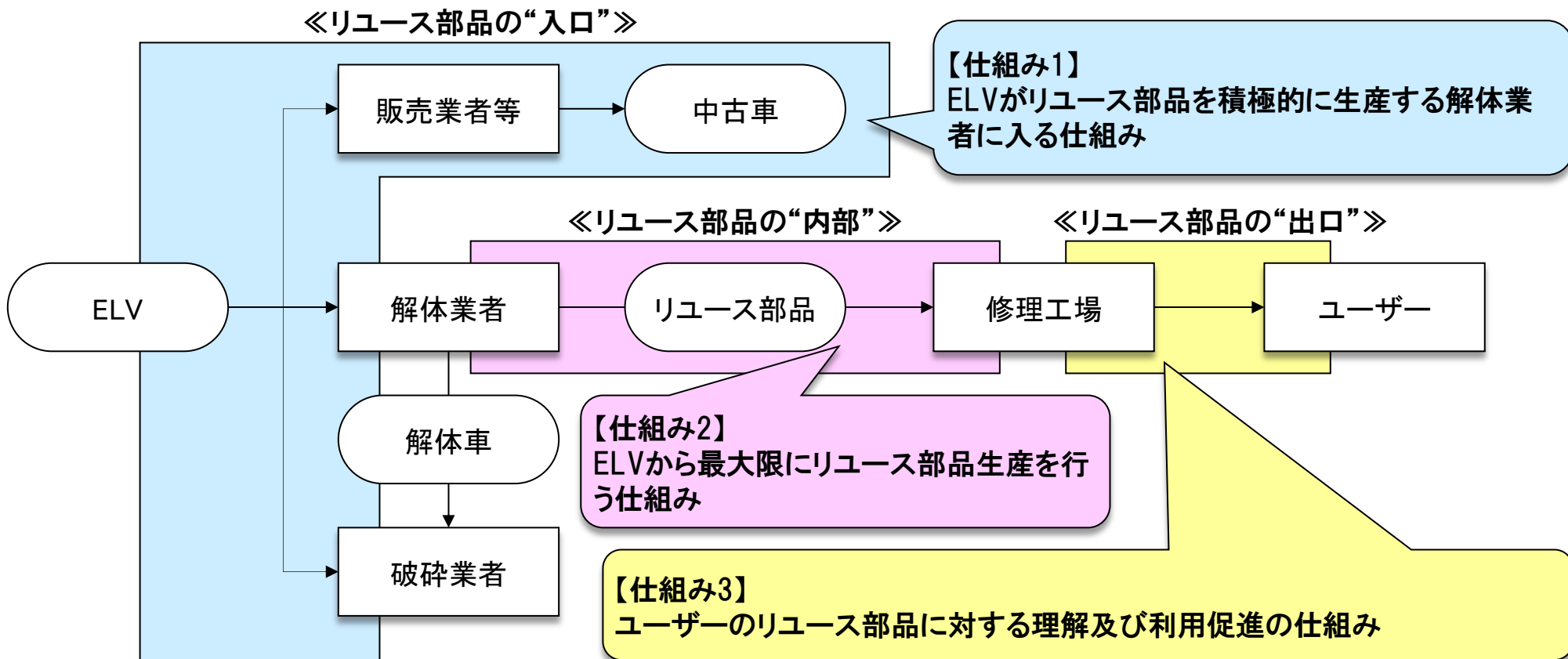
3Rの優先順位

望ましい方向



リサイクル部品の普及に向けた課題は？

入口から出口まで



そもそも誰がリサイクル料金を負担しているのか？

排出(入口)段階におけるユーザーの意識強化の必要性

- 中古車として売却するのか、ELVとして処理するのかは、自動車ユーザーが判断するもの
- また、その後の行方をウォッチすることは、自動車ユーザーが意識すべきもの
- 同時に、引取り業者から、自動車ユーザーへの説明・判断確認の徹底を促すべきではないか？

使用済自動車のリサイクル(フロン類の回収・破壊並びにエアバッグ類及びシュレツダーダストのリサイクル)に要する費用は、自動車の所有者に負担していただきます。

リサイクル料金は、原則として、新車購入時に負担することとされています。ただし、購入時にリサイクル料金を負担していないものについては、自動車が使用済となり、引取業者に引き渡す際に負担することとなります。

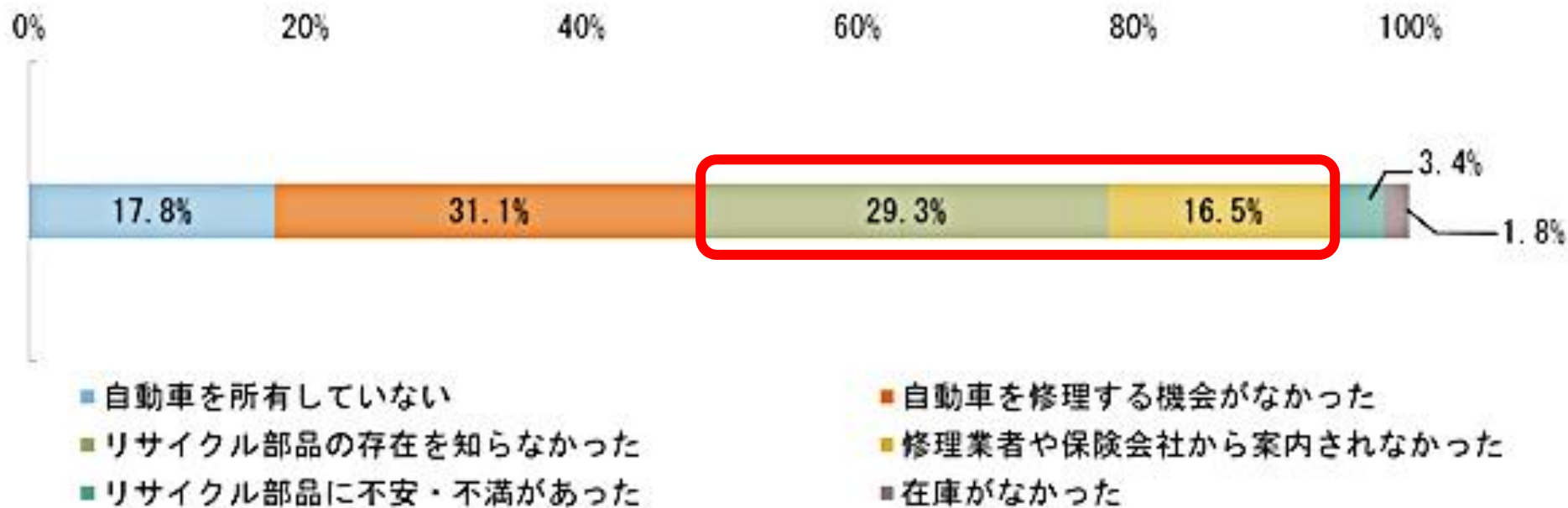
リサイクル料金は予め各自動車製造業者等が定め、公表します。これにより自動車製造業者間の競争が生じ、リサイクル容易な自動車の設計・製造や料金低減が図られると考えられます。

ユーザーは、リサイクル部品を知っているのか？

リサイクル部品の修理経験が無いユーザーが挙げた、その理由

- 「リサイクル部品の存在を知らなかった」29.3%
- 「修理業者や保険会社から案内されなかった」16.5%

普及啓発が重要であり、消費者団体、修理業者、保険会社との連携が重要



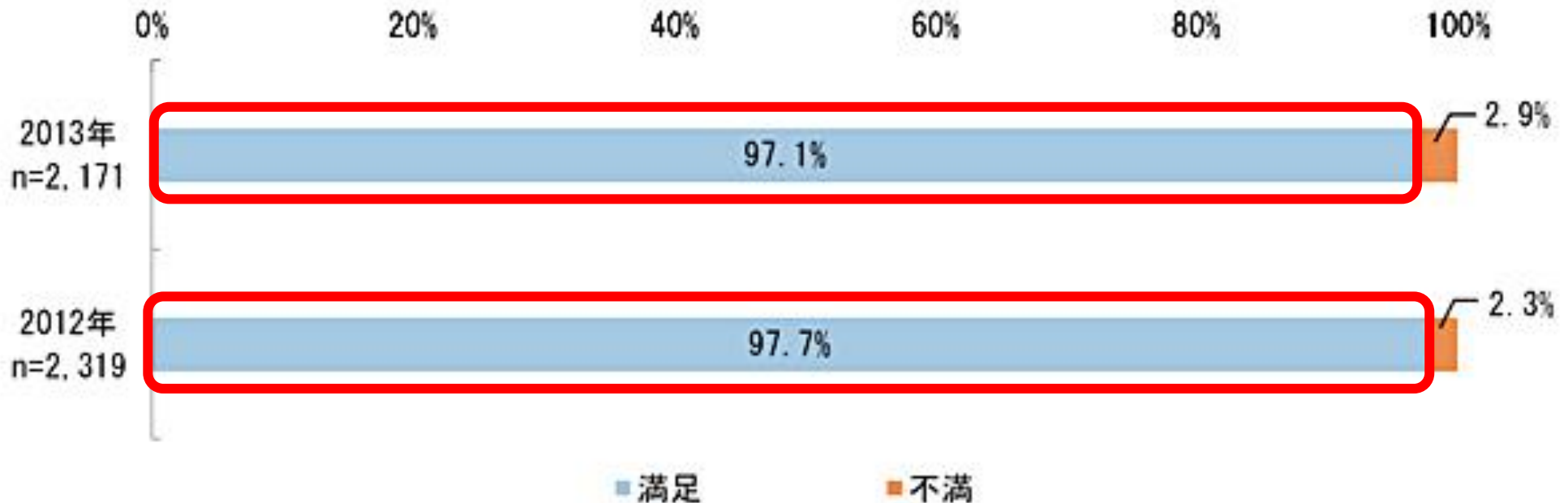
ユーザーはリユース部品に満足していないのか？

リサイクル部品の使用したユーザーが挙げた、リサイクル部品に対する感想

- 「満足」とする回答が97.1%

一度使ってもらえれば、ほとんどのユーザーが満足

- リサイクル部品を知ってもらうこと、提案してもらうことが重要



リサイクル部品普及へ動き広がる

損保業界が積極路線に

リ協は品質保証シール

行政も後押し

自動車リサイクル部品の普及に向けた動きが広がりをを見せている。損害保険業界や整備業界など業界を越えた連携に加え、関係官庁も環境面から後押しする。とくに損保業界は悪化している収支の改善を見込めることから、リサイクル部品の利用拡大を促進する姿勢に転換。今年10、11月の3R（リデュース・リユース・リサイクル）推進月間では、日本損害保険協会がチラシ45万枚、ポスター17万枚を制作し、損保ルートで全数配布した。業界横断的に加え、官民挙げた取り組みでリサイクル部品の認知度が高まる可能性が出ている。

広がる 線に リ

行政も後押し

を取ってきた。しかし事故修理額の増大による収益悪化を

背景に、リサイクル部品に対する見方を変更。とくに日本自動車リサイクル部品協議会（リ協）が加盟12団体の品質基準を統一したことで、リサイクル部品活用を促進する路線に転じた。

今年1月には損保協会とリ

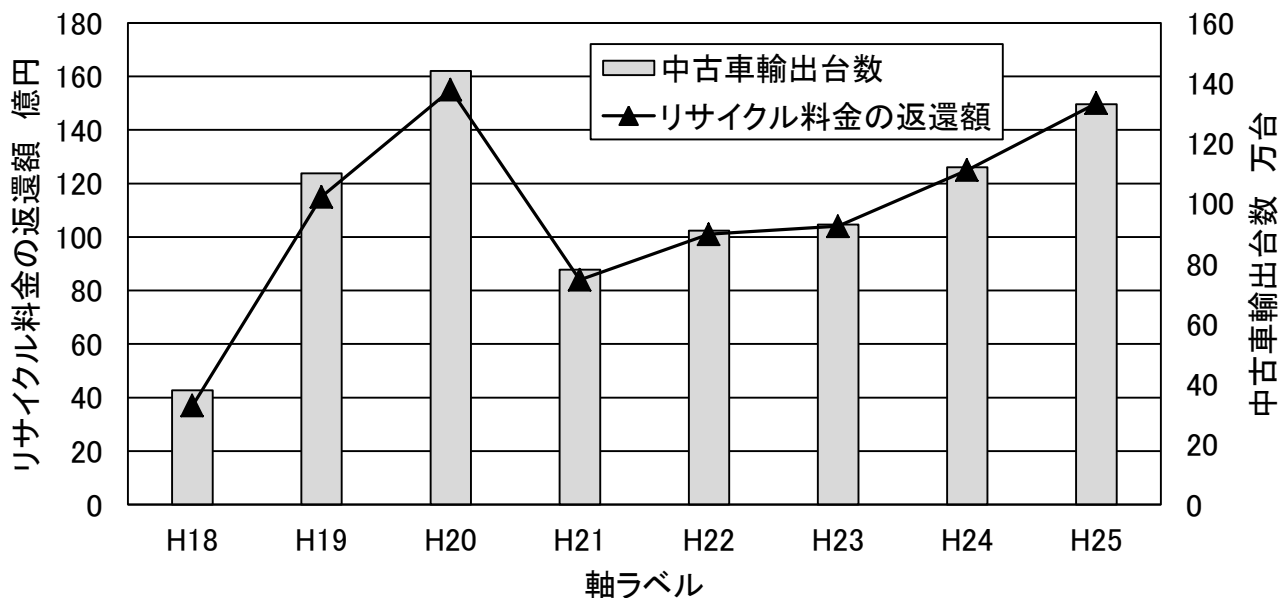
協、日本自動車整備振興会連合会、日本自動車車体整備協同組合連合会、日本中古自動車販売協会連合会一の自動車関連5団体が「自動車リサイクル部品推進検討会」を立ち上げた。リサイクル部品利用の環境整備に、業界横断的に取り組もうというものだ。今年の3R推進月間に対する取り組みも同検討会で決められた。

同検討会をさらに格上げするため、このほど名称を「自動車リサイクル部品活用推進会議」に変更。その第1回の会合を21日、東京都千代田区の損保会館で開催。損保協会、リ協、日整連、日車協連の4団体（中販連は欠席）に加え、経産省、国交省、環境

中古車輸出におけるリサイクル料金の取り扱い

中古車として海外輸出される場合、自動車リサイクル料金は、自動車所有者（主に輸出業者）に返還される制度となっているが、以下の点を考えていくべきでないか？

- ユーザーが車輜を引き渡す際に、この仕組み及び下記を理解しているのかという点
- 不適正な車輜までも輸出され、輸出先での環境汚染を引き起こす可能性があるのに、輸出業者にリサイクル料金が返還されていいのかという点
- 返還されるリサイクル料金を、より高度な循環型社会の推進に向けた資金として活用できないのか（すべきではないか）という点
 - ー 特に、海外に出た車輜の適正な処理を確保していくための取り組みなど



リサイクル料金の低減に向けて 将来的な在り方も同時に重要

- リサイクル料金を負担するユーザーとして、今後の動向に対する意見も重要

ASR発生量の低減^{注1} アジ化ナトリウムの不使用^{注2}
一括展開のISO化^{注3}

次世代の
自動車用冷媒^{注4}

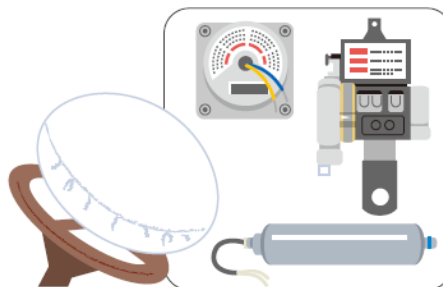
お支払いいただいたリサイクル料金は3品目の処理に活用されています。

シュレッダーダスト(廃車くず)



廃車から有用部品や金属類などを回収した後のくずは、さらに資源を回収したり、熱源としてできる限り再利用し、どうしても残ってしまうものだけを埋め立てます。

エアバッグ類



エアバッグ類には火薬が使用されているので、廃車から取り外すなどして安全に処理します。また金属部分は資源としてリサイクルします。

フロン類



カーエアコンに使用されるフロン類は、オゾン層破壊や地球温暖化の原因となるため、回収して高温で燃やすなどして破壊し、無害化します。

出所：環境省 自動車所有者向け普及啓発チラシ

注1： 事前に部品取りを行えば、発生量は軽減され、処理費用が下がる

注2： アジ化ナトリウムは2000年以降に発売された自動車のエアバッグには不使用であり、エアバッグを指定回収品目にしていく理由が薄れてくる

注3： 2012年6月に一括展開のISO規格が制定、2014年の新型車ではISO規格対応になることで、エアバッグ処理費用の低減が見込まれる

注3： 次世代の環境対応型自動車用冷媒(1234yf)などの普及動向により、フロン類を指定回収品目にしていく理由が薄れてくる

自動車ユーザー視点でリサイクル部品の普及を



自動車リサイクル部品の供給で地球温暖化防止に貢献する

Green Point Club



参考資料

リユース部品とは？



エンジンスターター 「かけるくん3」



国産・外車を問わずあらゆる車両
のエンジンをかけることができます。

クーラーコンプレッサー テスター機



フロンガスがない状態でコンプレッ
サーの性能を調べることができます。

リビルト部品とは？



完全な形に再生すること

分解・洗浄・部品交換・組立調整して商品化

リビルト部品とは、日本語でいうところの再生部品のことです。

基本的には機能部品（メカニカル・パーツ）を完全な形に再生することです。

原則的にボルト1個、ナット1個まで分解し、洗浄し、悪いところがあれば新品部品に交換したり機械加工し組み付けられ、入念なテストを重ねた上で商品化されます。

リユース部品の環境貢献を「見える化」



リサイクル部品1点でCO₂を48kgを削減できます

次世代のために
リサイクル部品使用でCO₂を削減しよう

自動車リサイクル部品の供給で地球温暖化防止に貢献する

Green Point Club

日本自動車リサイクル部品販売団体協議会
http://www.japra.gr.jp E-mail: info@japra.gr.jp

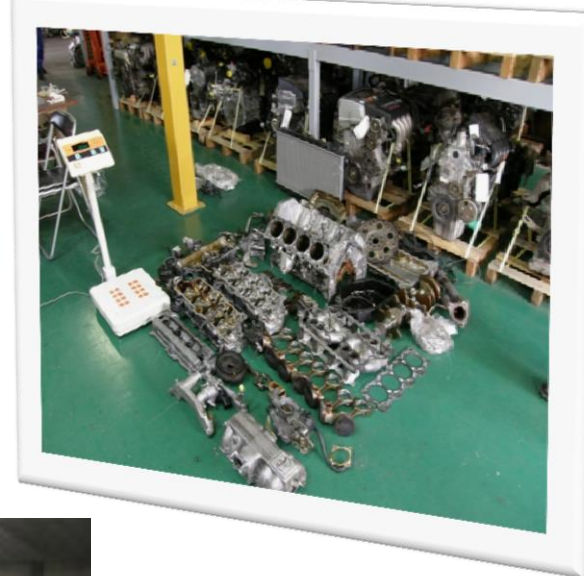
グリーンポイントクラブとは

日本自動車リサイクル部品販売団体協議会（JAPRA）と早稲田大学環境総合研究センターの共同で、自動車リサイクル部品の活用が新品部品に比べて環境負荷削減効果がどの程度あるか、環境負荷の差をCO₂削減効果として換算・数値化する「グリーンポイントシステム」を開発、幅広く利用することにより普及促進を図ります。この「グリーンポイントシステム」の利用者団体がグリーンポイントクラブです。

ひとつひとつの自動車リサイクル部品毎にCO₂削減効果の数値化を実現！

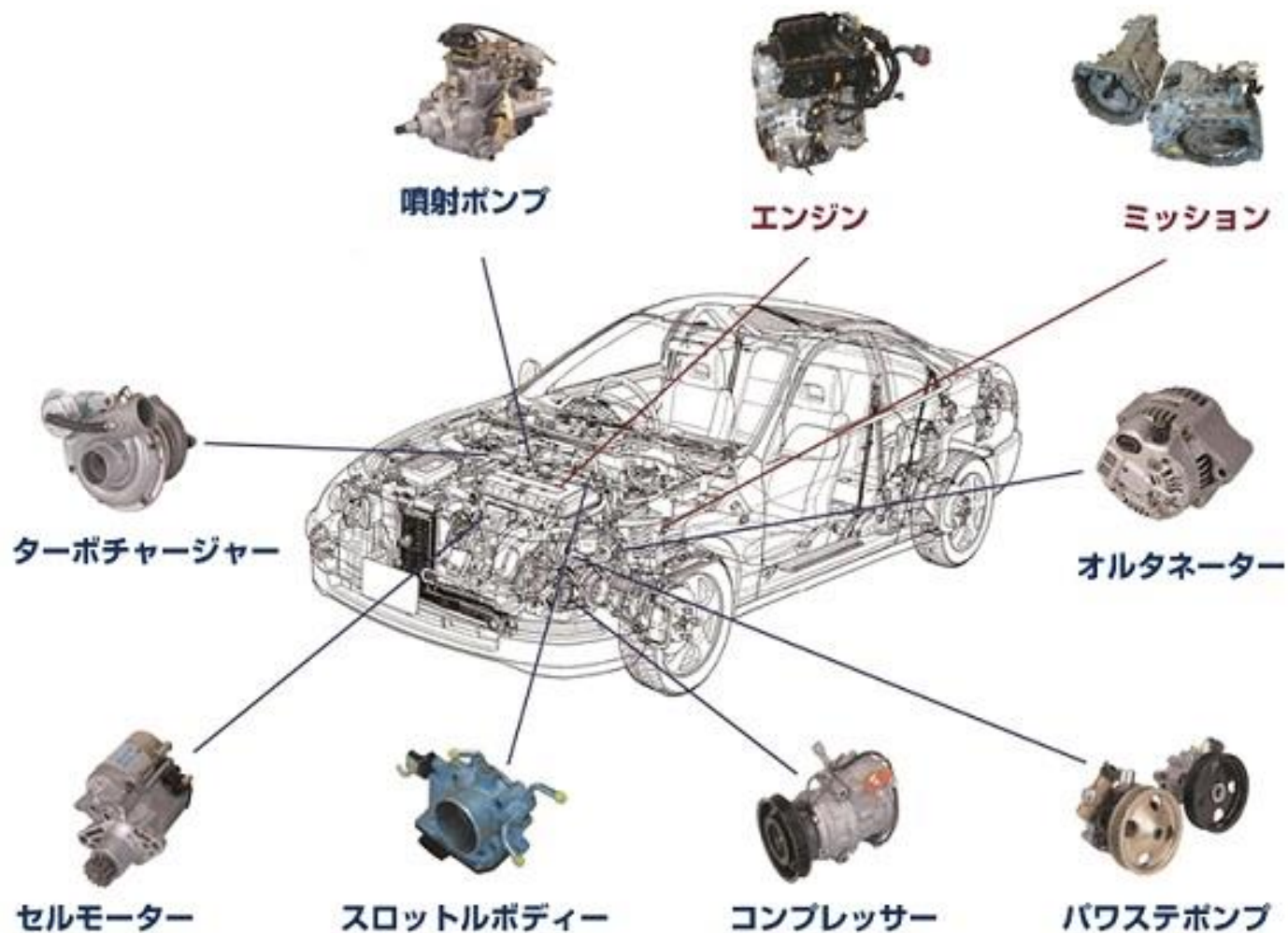
リユース部品の環境貢献を「見える化」

早稲田大学環境総合研究センターとの共同研究の風景



安心に向けた、品質・保証基準の統一化

第一次対象部品



安心に向けた、品質・保証基準の統一化

エンジン検査証及び保証書

発行日 2011年11月26日

(株)渋沢自動車
埼玉県深谷市中央〇〇〇
TEL 0485-00-0000
FAX

販売元
(株)ユーパーツ
TEL 048-524-0610
出荷元
(株)ユーパーツ
TEL 048-524-0610
検査担当者 月吉伸行

出荷日 検査日 2011年10月24日 最終検査日 2011年10月27日

車名	型式	年式	車台No.
アークス	CBE-NCP51V	2010年05月	0241699
エンジン型式	エンジンNo.	走行距離	ミッションのタイプ
1NZFE	681956	36,553 Km	AT
ミッション型式	備考		
U340E-05A			
チェック項目	良否及び有無	チェック項目	良否及び有無
各部損傷の有無	無	冷却水の量	良
欠品部品の有無	無	水漏れ	無
始動性	良	ラジエターの吹き返し	無
アイドリングの状態	良	オイルの汚れ	無
レーシングの状態	良	油圧	/ kg/cm ²
異音	無	オイル漏れ	無
排気ガスの色	無	カムシャフトの傷	無
ブローパイプの状態	良	スラッジの有無	無
負圧	/	パワーバランス	/
圧縮値	No.1 1.20 Mpa No.7 ***	No.2 1.20 Mpa No.8 ***	No.3 1.20 Mpa No.9 ***
	No.4 1.20 Mpa No.10 ***	No.5 *** No.11 ***	No.6 *** No.12 ***
単位換算方法: 1kg=0.098Mpa / 1Mpa=10.2kg 例: 11.4kg x 0.098 = 1.12Mpa / 1.12Mpa x 10.2 = 11.4kg			
★以上の項目をチェックいたしました。その結果正常な商品と判断致しました。			

保証書

保証番号 (11013512)

お客様名
(株)渋沢自動車
埼玉県深谷市中央〇〇〇
TEL 0485-00-0000 FAX

保証期間

- 商品出荷日より6ヶ月間とする。ただし、その期間内でも走行距離10,000kmまでとする。
- 使用(取替え)が、出荷日より1ヶ月以上遅れる場合には、販売元に申し入れの上、保証期間を延長する事が出来ます。ただし、保管状態が悪い場合(塵外、水分、ほこりの多い場所)は、保証の延長および保証は認められません。



日本自動車リサイクル協会は、自動車部品をリユース部品として販売する際の「保証基準」と「品質検定基準」を共通化し、発表しました。

「発表」リサイクル部品が共通化されるのは今回初めて、同協会の会員12団体・500社が利用するリサイクル部品が共通化されることで、従来の「JATRA(ジャパラ)システム」、「NGPシステム」、「SPNシステム」に賛同、販売する部品の基準を共通化した。使用済自動車から部品を取り外す際に車上で動作テストや検査機器による確認を実施、一定の基準を満たしたリユース部品を保証付として販売する。

12団体500社が機能部品で
リサイクル協 9品目を対象に

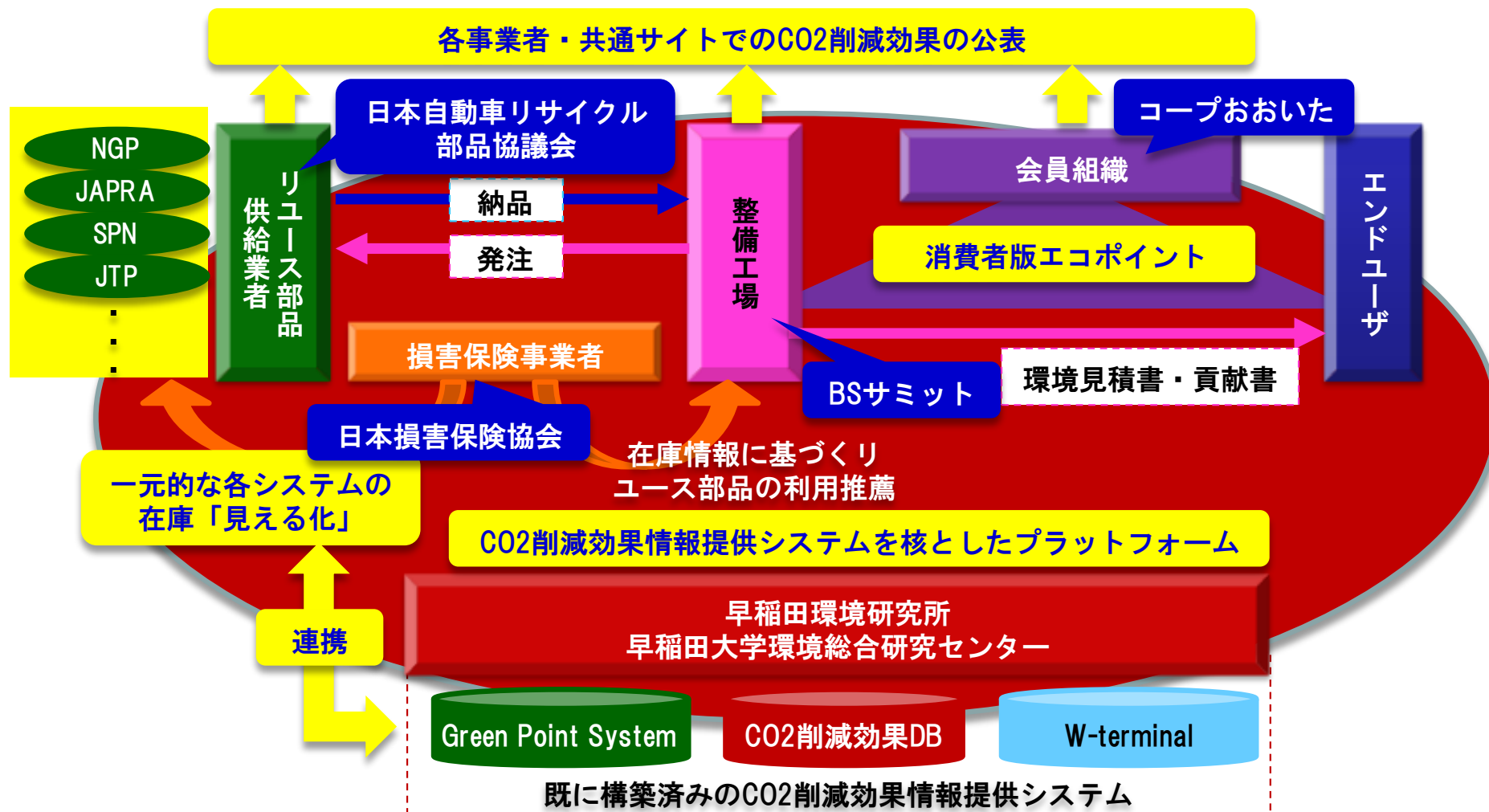
保証・品質基準を共通化

対象となる部品は、エンジン・トランスミッション、オルタネーターやセルモーター、エアコンコンプレッサーなど計9品目。保証期間は、エンジン・ミッションが6カ月または10,000km、その他の部品は3ヶ月または3,000kmとする。今年度中に基準を確定し、来年度以降の運用を目指す。



発行所
日刊自動車新聞社
東京都港区海岸2丁目1番25号
印刷番号105-0022
電話 東京03(3456)5321 大代通
日刊自動車新聞社2011
4月18日
(月曜日)

平成23年度自動車リサイクル連携高度化事業 エコポイントの試験的導入



平成23年度自動車リサイクル連携高度化事業 展開したキャンペーン

『自動車リユース部品を使って“知って”“使おう”！エコポイントキャンペーン』

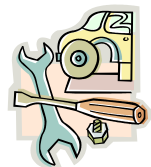
- ◆これまでにコープおおいたで実施してきた「牛乳パック」「天ぷら油」の回収とリユース部品の活用を融合させたエコポイントシステムを展開する。
- ◆本事業期間が限られていることから、ポイント数に応じた抽選方式で実施する。
- ◆実施期間は2012年1月16日～2012年2月28日

自動車以外の取組み

牛乳パック 天ぷら油



自動車の取組み



地球健康車検
リユース部品
の活用

コープおおいた環境ステーション



環境貢献見積書

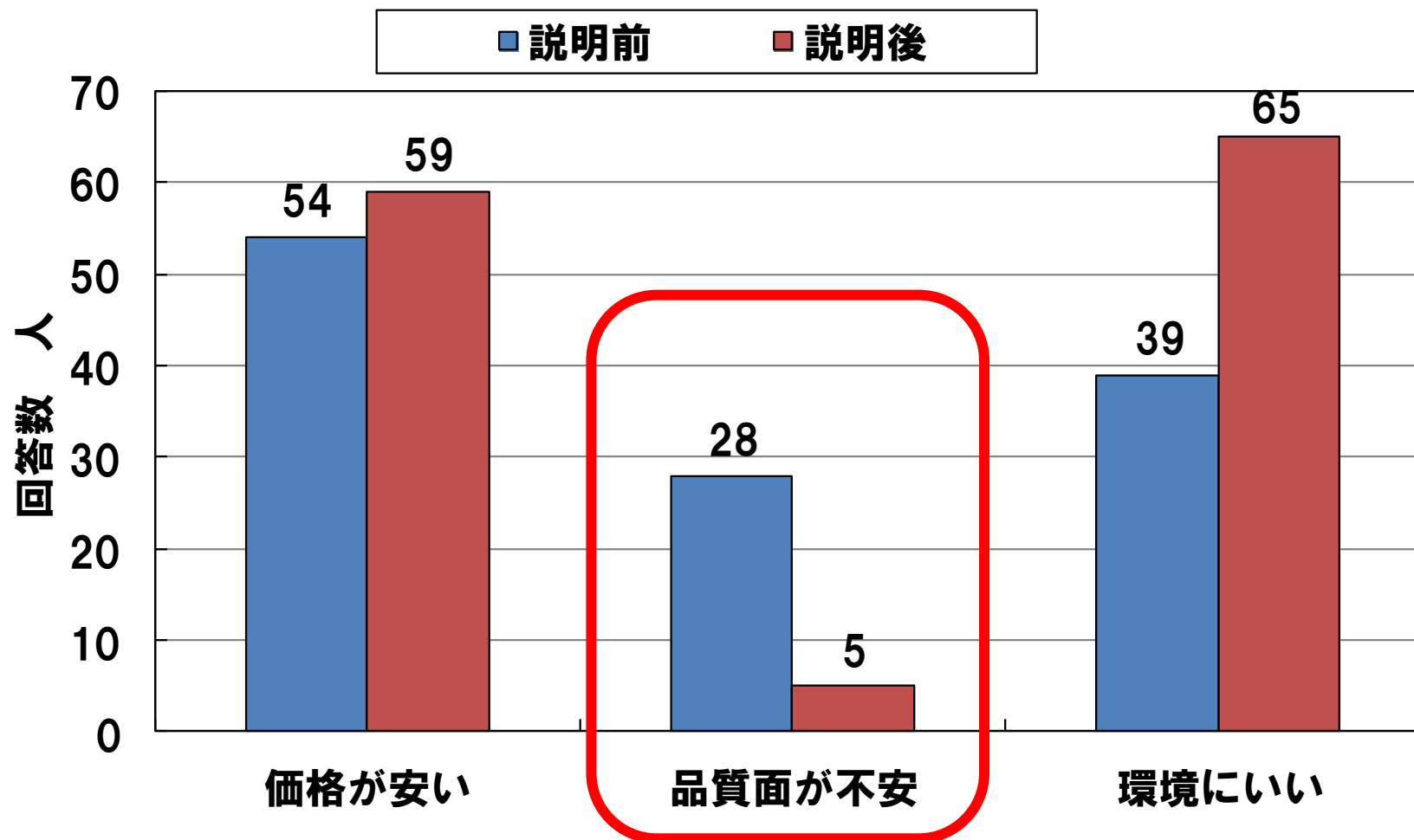
牛乳パック・天ぷら油の持込み

環境貢献書
(CO2削減効果)

抽選券

参加者人数	環境見積		牛乳パック		天ぷら油		車検予約	
	人数	枚	人数	枚	人数	L	人数	件
101	95	105	58	1210	37	26.5	12	12

平成23年度自動車リサイクル連携高度化事業 説明すれば伝わる、リサイクル部品！



将来の自動車リサイクル

～エアバッグのリユースを例に～

《技術的な動向》

破碎工程における“安全・安心”な
リサイクルシステムの担保



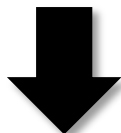
アジ化ナトリウムの不使用

《対応が必要なこと》

リユース部品としてのエアバッグの適正作動
を明確に担保する手段の欠如



ユーザーと一体化した議論の必要性



両輪でなければ進まない



エアバッグの指定回収品目からの除外

《リサイクル法の目指すところ》

(社会コストミニマム)
自動車リサイクル料金の低減

(循環型社会形成)
自動車の2R促進